棒グラフ：一目盛りと0を決めて伝える

講師用メモ・バージョン 3

1〜2ページは見本を使う対話、3〜6ページはC1〜C8の児童の説明・表・棒グラフ・調べた記録です。見本の人数は架空であり、実地調査の結果ではありません。C4の主張と2ページのグラフは、0から始めない棒の見え方を点検するための例です。C5は異なる目盛りの棒の長さだけで比較しない課題です。紙・定規・必要なら方眼紙を用意し、児童が一貫した目盛り・0・単位・項目・題名を付けた成果物を確認します。読み方やかき方を述べただけで、表やグラフをかいた達成とはしません。実際の児童との試用はまだ行っていません。

練習問題の解答はこの講師用メモに分けています。編集版であり、実際の授業での試用はまだ行っていません。

C1・C2：めもりと自分のグラフ

C1. 1ページの見本で、0から8までは同じ大きさの四区間です。1めもりが何人か、自分の数直線や式でせつめいしてください。図工のぼうを0からたどったきろくをくわえ、音楽より何人多いかもせつめいしてください。

解答・確認の観点：一目盛りは8÷4=2人。図工は七区間で14人、音楽は四区間で8人なので差は6人。児童の数直線や区間の印・式と棒の対応が必要。

C2. 春8人・夏12人・秋6人・冬10人という用意されたきろくを、自分の表とぼうグラフにしてください。1めもりを2人として、題名・こうもく・たんい・0・数字を付け、いちばん多いこうもくといちばん少ないこうもくのちがいをせつめいしてください。

解答・確認の観点：児童の表と0からの四本の棒。春4・夏6・秋3・冬5区間、人数8・12・6・10、合計36人。夏と秋の差6人。題名や数字の付け方は明瞭で一貫していれば別表現も認める。

C3・C4：めもりを決め、図を直す

C3. 図書コーナー40人・運動場70人・音楽室30人という用意されたきろくで、くらべやすいめもりを自分でえらんでぼうグラフをかいてください。えらんだ理由と、1めもり・0・たんいをきろくしてください。

解答・確認の観点：例：一目盛り10人、0から80までにし、40・70・30人をそれぞれ4・7・3区間にする。5人など別の適切で一貫した目盛りも可。児童のグラフと選択理由が必要。

C4. 2ページの図を見て「火曜日のぼうは月曜日の二倍の長さだから、人数も二倍だ」という考えをたしかめてください。自分で0からのぼうへかき直し、じっさいの人数とちがいをもとにひつような所を直してください。

解答・確認の観点：主張は誤り。月14人・火16人で、差は2人。火は月の二倍28人ではない。見える棒が12から始まっているため2区間と4区間になる。児童の0からの棒と説明が必要。

C5・C6：やくそくを見て、自分で調べる

C5. Aは10人、Bは12人という用意されたきろくを使います。Aを1めもり5人、Bを1めもり2人とし、同じはばのめもりを使う二つのぼうグラフを自分でかいてください。ぼうの長さだけで人数をくらべてよいか、二つの0と数字・人数を使ってせつめいしてください。

解答・確認の観点：児童の二つのグラフ。Aは2区間で10人、Bは6区間で12人。Bの見える棒が三倍でも人数は三倍ではなく、差は2人。尺度が違うので目盛りの人数を読んで比べる。

C6. 何を調べたいかと、三つくらいの分け方を自分で決めてください。一人が一つだけえらぶようにして、身近な人数をじっさいに調べます。名前は書かず、集めたしりょう・合計をたしかめた表・ぼうグラフ・分かったことを自分でのこしてください。調べられないときは、用意されたしりょうでのれんしゅうと書いてください。

解答・確認の観点：対象・一人一つ・分類が明瞭で、落ちや重なりを確かめた児童の匿名の資料・合計付き表・0と単位や一貫した目盛りのグラフ。結論は調べた対象の範囲で述べる。用意された資料なら実地調査の達成とはしない。

C7・C8：0人と全体を見直す

C7. 赤0人・青4人・緑7人という用意されたきろくを、1めもり1人の自分のぼうグラフに表してください。0人のこうもくも分かるようにし、こうもくがない場合とのちがいをせつめいしてください。

解答・確認の観点：児童の赤・青・緑の三項目を示すグラフ。赤は高さ0で棒が伸びず、青4・緑7人、合計11人。項目の赤を消さず、0人と調べていない・分類しなかった場合を混同しない。

C8. 一人一つをえらんだ30人について、A12人・B10人・C8人という用意されたきろくがあります。「Aがいちばん多いので、この30人はみんなAをえらんだ」という考えをたしかめてください。自分の表やぼうグラフを作り、ひつような所を直して、しりょうから言えることをせつめいしてください。

解答・確認の観点：主張は誤り。Aは三項目の中で最も多い12人だが、B10人・C8人もいる。合計30人のうちA以外は18人。児童の表やグラフで最大の項目と全体を区別する。百分率や一般の多数決の公式は不要。

利用と出典表示

© 2026 MomentDesk / PRYADKO DANILA. 無料・有料の授業で利用し、自分の授業用に変更できます。共有時はMomentDeskの出典表示を残してください。テンプレートの転売や、自作としての再公開はできません。

文部科学省・小学校算数編・小3D(1)：表と棒グラフ（冊子168〜170/PDF174〜176） — https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002607_04.pdf#page=174